

新たな歴史館の創造をめざして ～長野県立歴史館の使命と目標～

令和3年度(2021年度)評価表

評価の区分 : A 目標を上回る成果をあげた B ほぼ目標は達成した
C 目標には及ばなかった D 目標には遠く及ばなかった

【使命】 長野県立歴史館は、長野県に関する歴史遺産の収集・整理・保存・調査研究を通じて、それらを未来に引き継ぐ活動を市町村と連携して行うとともに、県民が歴史をふりかえり、将来を展望する場、楽しみ・憩い・交流する場としての役割を果たします。

また、地域に貢献する県内博物館・文書館の中核、歴史情報の拠点を目指します。

【基本目標1】長野県民の歴史遺産を未来に継承するための取組を進めます

【取組1-1】考古資料・歴史的価値を有する文書・その他歴史資料等を収集・整理・保存し、調査研究を行います

令和3年度 目標値	令和3年度 達成値	自己評価	利用者評価(◇:アンケート)
○文献史料の収集・整理・保存 *行政文書、県報、行政資料 ・新規収集資料(年間約500件)の収集・整理・登録・配架 ・県報、行政資料の公開(年間約300冊) ・公開・非公開判定、金属除去等の実施 ・未整理近現代史料・県報・県史写真版資料等の整理	・新規収集資料の選別・収集・整理 行政簿冊 888冊、県報 127件、 行政資料 162冊、近現代資料 12件 ・行政文書の公開非公開判定 457冊 ・未整理現代史料等の整理 *上田東高校移管図書など 14件 1248点の 現代史料整理・保存・公開 *長野県史写真フィルム(35mm)の洗浄・複製製作(継続事業) 諏訪郡 468本	a A	◇開館以来公開されていなかった長野県青年団関係資料(1次分)を公開されておりありがたい。今後の研究材料としたい。
*古文書 ・新規史料の収集 ・未整理史料の整理を進める。 ・年度内 10,000点整理	・新規史料の収集 11件 約4,310点(概数分含む) ・未整理史料の整理 20件 23,289点(継続整理分含む) ・公開 12件 7,395点	a	・代替わりなどで家屋を取り壊す際に古文書の取扱いに困ったが歴史館が寄贈を受入れていただきありがたかったとの声をいただいた。
○考古資料の収集・整理・保存 ・館蔵考古資料の整理と収納 発掘調査報告書別、寄贈者別に収蔵品(遺物・記録図面・写真所見等)の棚卸しを行い、適切な閲覧(調査研究)ができるよう再整理し再収納する。 ・写真資料等の保存(フィルムのデジタル化) 35ミボジフィルムに加え、6×7フィルムに着手	・館蔵考古資料の整理と収納の方法と手順について全体計画を作成し再整理を開始 収蔵資料の棚卸と箱ラベル貼替え 1441箱 ・写真資料の保存(デジタル化) 6×7 ポジフィルム着手 35mm ポジ 1,300枚 6×7 ポジ 2,065枚	a	
○考古資料の保存処理 ・収納木製品の保存処理 大型木製品に着手(PEG槽へ274点を投入・濃度アップ、樹脂塗布等処理72点、取り上げ194点) 新薬剤(トレハロース)による処理に着手 ・収納金属器、骨角製品等の保存処理 収蔵金属器の劣化状況に応じた処理・再処理を進める。 ・長野県埋蔵文化財センターの応急的保存処理に協力	・収納木製品の保存処理 PEG処理225点、トレハロース処理5点 ・金属器保存処理 44点 ・長野県埋蔵文化財センターの応急的保存処理に協力(100%対応)	b B	
○史資料の科学分析 ・蛍光X線分析等非破壊の科学分析を実施する。依頼に対し、実務調整を行い、可能な範囲で対応	・金属製品のX線撮影依頼に関しては、調整の上で100%対応 ・蛍光X線分析装置による黒曜石産地推定分析の実施に向けた原産地資料のデータ取り込みのため、明治大学黒曜石研究センターにて研修及び協議を実施	b	・依頼市町村等から、県内に分析できる機関があることはありがたいとの声があった。 ・X線画像の読解方法などの研修をとの要望があった。
○令和4年度企画展の資料調査 ・企画展「修験展」「諏訪展」「高遠展」の実施設計の作成 ・上記企画展の資料調査の実施	・R4企画展「山伏一佐久の修験 大井法華堂の世界」、「諏訪と武田氏」、「高遠藩の遺産—最後の藩主が残したもの—」の資料調査を実施。具体的実施設計を作成	A	・R元に寄贈された大井法華堂文書のほか R3に仏具など什物類が一括に寄贈され、調査を深めることができた。
○職員の調査研究の推進 ・学芸研究会等における調査研究発表 ・研究紀要への研究論文の掲載 10論文以上 ・「時代別研究会」の充実 各時代年間6回以上の開催	・学芸研究会 11回実施、15人発表 ・研究紀要第28号発刊、8論文掲載 ・「時代別研究会」4つ中3つの時代で6回以上開催 月1回ペースで開催した研究会もあり	B	

[取組1-2] 史資料の保護(保存・活用)に取り組むとともに、保護思想を啓発します

令和3年度 目標値	令和3年度 達成値	自己評価	利用者評価(◇:アンケート)
<p>○県立の文化財公開機関として、企画展等において指定文化財を展示・公開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村、県、国の指定文化財の展示機会を設ける。 ・当館所蔵文化財借用依頼への対応 ・史資料の保存に関する調査研究を進めその成果を公開 	<ul style="list-style-type: none"> ・秋季企画展「全盛期の縄文土器一圧倒する褶曲文」にて、十日町市博物館所蔵国宝「火焰形土器」(新潟県十日町市笹山遺跡)、富士見町井戸尻考古館所蔵長野県宝「水煙文土器」(富士見町曾利遺跡)など指定文化財を借用、多くの県民に観覧いただく。 ・館蔵品展にて、いずれも長野県宝信濃町日向林B遺跡石器、佐久市下茂内遺跡石器、千曲市社宮司遺跡木造六角宝幢を展示 ・当館所蔵の長野県宝札沢遺跡縄文土器を富士見町へ貸出 	A	<ul style="list-style-type: none"> ◇国宝含めてたくさんの土器を一堂に展示しており、その努力に感謝する。 ◇国宝、重要文化財、長野県宝が数多く展示されており、大変よかった。
<p>○文献史料保存活用講習会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催3回 参加者 60人 	<ul style="list-style-type: none"> ・3回開催(うち1回はWeb会議) 参加者数 85人 満足度 100% 	a	<ul style="list-style-type: none"> ◇高温スチームによる裏張り剥がしや、メチルセルロースによる接合は、自分でも取り組めそう。 ◇動画を復習し、作業員さんとも情報共有したい。 ◇オンラインだが先生の実技を拝見できとても有意義だった。 ◇今まで避けられることも多かった新しい技術を取り入れることも、新たな刺激になり必要 ◇講義の内容は面白く、実技は興味深かった。
<p>○考古資料保存技術講習会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催2回程度 	<ul style="list-style-type: none"> ・2回開催(伊那市、佐久市) 21人参加 ・コロナ感染拡大のため1回中止 	a	<ul style="list-style-type: none"> ◇洗浄や修復は劣化状態を把握できれば自分たちでも作業できることがわかり、今後活動に活かしたい。 ◇知らなかった事柄が多く、文化財そのものの素材や成分等によって修復方法も違うなど勉強になった。
<p>○防災・災害の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例研究や他県の体制・対応を参考に研究を推進 <p>○資料の保存等に関する市町村への協力・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・依頼事項の90%以上 <p>○埋蔵文化財の保護等に関わる市町村への協力・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遺跡や遺物の保護、発掘調査等を学術面から支援する(依頼に応じて対応) ・埋蔵文化財(遺跡・遺物)に関わる研究や研修(講演等含)に対し協力・支援する(依頼に応じて対応) 	<ul style="list-style-type: none"> ・長野市博が令和元年台風19号被災資料を当館に寄託、当館管理の(仮称)須坂収蔵庫(旧須坂商業高)へ収蔵 ・当館行政資料等の須坂収蔵庫(旧須坂商業高校)への移転検討 ・7月豪雨(県南部)、3月地震(東北沖震源)時には災害の状況把握をおこなった。また、県教委主催「第1回文化財レスキューネット代表者会」へ出席、災害発生時、平時の対応について協議 ・県史料協の講習会で「文化財レスキューマニュアル」の概要について周知。災害時破損資料の修復についてWEB講習を実施 ・災害被災資料の保存についての問い合わせに対応(100%) ・大雨や台風の後など、県博物館協議会や県史料保存連絡協議会等のネットワークを活用して被害の有無等を情報収集 ・R2年度「弥生展」パネルを用いて県内市町村と共催の地域展を開催 ・考古専門学芸員不在市町村からの遺物保存等に関する相談に対応・支援(100%) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財レスキューに関して、当館資料調査員会議において県教委の担当者から説明してもらったことで、各地域の調査員が災害時の文化財の救出について理解を深めることができたなどの感想をいただいた。
<p>○県、市町村等へ公文書等の保存・活用についての支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・依頼事項への対応 90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内市町村からの公文書等の保存・活用についての問い合わせに対応(100%) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ◇重要文書の選別や地域資料の収集などについて、適切な助言がありがたい。

【基本目標2】 未来を映す歴史知識の泉、歴史学習の拠点としての役割を果たします

〔取組2-1〕 長野県の歴史を明らかにし、その成果を普及します

令和3年度 目標値	令和3年度 達成値	自己評価	利用者評価(◇:アンケート)
○常設展示の工夫 ・満足度 80%以上 ・関係機関との連携 信州大学工学部、県内外博物館等	・観覧者数 25,831人 満足度 93% (R2 21,764人 前年比 118.7% R元 50,253人) ・新型コロナ感染症の拡がりのため、「Web 企画『おうちで歴史館』』と題して、常設展示室内の解説(動画)を作成してHPで公開 ・企画展の解説などもYouTubeで公開 ・信大工学部と連携し、「可視化ID多言語コンテンツガイドシステム」(ビーコンガイド)の常設展示室における実証実験に協力	A	・Youtube を利用した解説動画は、繰り返し、また、静止して見られる等、高評価を得た。 ◇昔のものがたくさんあり、特に音流し(ラジオ)が良い。 ◇何回も来たことがあるが、全然あきないし、すごく楽しい。 ◇小学校の思い出に残り、子供も連れてきた。また来たい。 ◇長野の全体像を見るのにとてもよかった。 ◇あまり新しい展示がない。
○全面的リニューアルに向けての検討、課題抽出	・リニューアルに関して、現状の課題を抽出し、(県教委等を含め)その必要性を認識してもらうための方策について検討	B	
○企画展示の充実 ・満足度 80%以上 ・所蔵品展「至宝の名品—絵画工芸編—」(3/13~6/13) ・夏季企画展「青少年義勇軍が見た満州」(7/10~8/22) ・秋季企画展「全盛期の縄文土器」(9/18~11/23) ・冬季企画展「没後 80 年『郷愁の画家』丸山晚霞展」(1/13~2/27)	・観覧者数 22,162人 (R2 16,127人 前年度比 137.4% R元 40,295人) ・満足度 89.44%(R2 91.24%) *所蔵品展「至宝の名品—絵画工芸編—」(3/13~6/13、年度内 4/1~6/13) 年度内 63日 5,590人 満足度 92.68% *夏季企画展「青少年義勇軍が見た満州」(7/10~8/22) 38日 4,858人 満足度 87.19% *秋季企画展「全盛期の縄文土器」(9/18~11/23) 55日 8,562人 満足度 91.93% *冬季企画展「郷愁の画家 丸山晚霞」(1/15~2/27) 31日 2,371人 満足度 93.80% *所蔵品展「至宝の名品—考古資料編—」(3/19~6/12、年度内 3/19~3/31) 11日 781人 満足度 88.9%	a A	◇当時の青少年義勇軍の皆さんのお気持ち、ご家族の想いを想像すると切なく思う。話を聞く機会も減っている中で、本物の体験を知ることができた。 ◇平和資料館とは異なり、想像をはるか超える展示だった。 ◇縄文文様の伝わり方がよく分かった。解説も図を多用して視覚的にわかりやすかった。 ◇先行して図録を見ていたが、現物を見て圧倒された。 ◇土の人物を取り上げた企画展、大変興味があり、どれも取り上げ方がよかった。 ◇絵から幼い頃が思い出された。何十年も絵具に触れていないが、スケッチブック片手に出かけてみたくなった。 ◇県内の発掘品を幅広く見ることができ、長野県の面白さを再確認した。 ◇考古資料が単に陳列されている感が否めない。磨製石器展示コーナーのような、そこからの研究進化、調査後の評価など、収蔵館としての主張がもっと欲しい。
○ミニ展示の開催 ・企画展示室横の小展示室を、各企画展の一部として使用しない際には、館蔵品を使った企画展関連展示や、新収蔵品の紹介展示などで活用	・ミニ展示「信州の木造校舎写真展」(冬季企画展と同時開催) ・県埋蔵文化財センター速報展(所蔵品展と同時開催) *「掘るしん 2021」(年度内 4/1~5/9 50日) 1993人 *「掘るしん 2022」(年度内 3/19~3/31 11日) 781人	b	
○総合研究の成果を企画展時に活かす ・3課の協力による所蔵品展の実施	・所蔵品展「至宝の名品—考古資料編」は3課から担当者を出し、協力して実施	B	
○館設定研究テーマの調査・研究 * 高遠藩研究会 ・高遠等での資料調査時に随時行う。 ・参加者:伊那市・宮田村の研究者・教委 ・内容及び到達目標:R4 冬季展「高遠展」に向け資料調査共有のため意見交換 ・秋季展に関連し山梨県考古学協会と曾利式土器の研究を進め、成果を発表 * 信州黒曜石文化研究会 ・回数:年1回実施 ・参加者:黒曜石産出地の市町村教委を中心に構成 ・内容及び到達目標:黒曜石の原産地と消費地に関わる流通実態の解明に向けて分析成果のまとめと分析を推進(R3は木曾地域を対象)	* 高遠藩研究会 ・構成:伊那市立高遠町歴史博物館学芸員、伊那市教委学芸員、上伊那教育会専門幹事、宮田村教委文化財担当、伊那市立高遠町図書館司書、当館 ・R4 冬季展「高遠展」に向け、展示資料の意見交換 * 信州黒曜石文化研究会 ・当初計画の成果あり(R2:今後の活動方針に関わるアンケート調査結果)として R3で終了を決定 ・継続的研究課題である市町村所蔵資料の黒曜石産地推定分析は、県教委主催の連絡協議会の特別チーム(仮称)で対応 ・分析機器の稼働のため明治大学黒曜石研究センターの講習会に出席 * 長野県の土偶研究会 ・県内出土土偶のデータベースが完成、当館 HPで公開 総資料数 4,320件 出土遺跡 582遺跡	B	・研究会メンバーからは、企画展の開催・その後の情報交換など一定の成果は認められるとの意見があった。 ・研究会は終了したが、当館には分析対象古資料、分析機器もあることから、今後も拠点となってほしいとの要望があった。 ◇データベースが完成し、研究に役立てることができ、ありがたい。
○未整理現代史料の整理を進める ・目録を作成し、データベースとして順次公開する。	・開館以来の未整理資料「県連合青年団」について目録を作成し、公開	A	・第一次寄贈分の整理が終了、公開でき、史料を調査・研究する共同研究会が設立できたことは喜ばしいとの声があった。

[取組2-2] 県民の生涯学習を支援します

令和3年度 目標値	令和3年度 達成値	自己評価	利用者評価(◇:アンケート)	
<p>○常設展示室たより「資料が語る」の作成</p> <p>・展示替・新展示に合わせて見直し・作成</p> <p>○展示解説・ギャラリートークの実施</p> <p>・解説希望の学校・団体 100%実施 (コロナ対策として密を避けるため、解説付きのみ受け入れる。)</p> <p>・各企画展における展示解説・ギャラリートーク実施</p>	<p>・展示替え、新展示に合わせて「資料が語る」を作成</p> <p>・新型コロナ対応において十分なリスク管理を行った上で、学校・団体解説を実施</p> <p>・展示解説を動画撮影し、HPで公開</p> <p>・密を避けるため、各企画展における展示解説・ギャラリートークは実施せず。</p> <p>・代替策として、わかり易い配布目録作成や、解説動画のHPアップ</p> <p>・秋季企画展では研修室等を使つてのミニトークなど新しい取組を実施</p>	B	<p>◇コロナで、展示物に触ってはいけないということだが、触らせないように監視されている感じで残念</p> <p>◇触れる展示物を取り入れてほしい。</p>	
<p>○信州学講座の開催</p> <p>・開催9回 満足度 80%</p> <p>※コロナ対応のため、参加人数制限、事前申込制があり得る。</p>	<p>・9回計画 5回開催 受講者 171人 満足度 88.7% (各回・会場とも人数制限。 新型コロナ対応のため中止4回)</p>	a	<p>◇歴史を学ぶ原点を見直す機会となった。多くの県民に聞いてほしい。</p> <p>◇信州をもう一度学びたい。</p> <p>◇善光寺地震の後日談はあるが、講座の新聞やニュースと通じるものがある。</p> <p>◇縄文時代の水と自然との関係について、現代と通じるテーマで非常に勉強になった。</p>	
<p>○考古学講座の開催、探訪会の実施</p> <p>・考古学講座 開催5回 特設講座開催3回 満足度 80%</p> <p>・探訪会(群馬県方面の博物館)実施1回</p>	<p>・考古学講座:テーマ『長野県の考古学～環境と暮らし～』 4回開催 受講者 196人 満足度 85% 特設2回 受講者 10名 満足度 85% (各回とも人数制限。 新型コロナ対応のため中止2回)</p> <p>・探訪会 新型コロナ対応で中止</p>	a	A	<p>◇旧石器から縄文時代の流れと暮らしの変化及び信州の代表的な遺跡がよく分かった。</p> <p>◇縄文時代の人のもの造りの苦労がよく理解できました。</p> <p>◇浅間山周辺の遺跡と火山活動史とを結びつけて説明があり、大変勉強になった。</p>
<p>○古文書講座の開催</p> <p>・開催 25回 受講者 600人 満足度 80%</p> <p>○ティーンズ古文書講座の開催</p> <p>・開催4回 受講者 5人 満足度 80%</p> <p>○古文書フォローアップ講座の開催</p> <p>・開催2回 受講生 110名 満足度 80%</p>	<p>・古文書講座 23回開催 受講者延べ 605人 満足度 91.8%</p> <p>・ティーンズ講座 4回開催 受講者延べ 24人 満足度 100%</p> <p>・フォローアップ講座 2回開催 受講者 64人 満足度 90.1%</p> <p>・オンラインによる配信方法について、他団体等の事例を参考に次年度の講座開講方法を研究</p>	a	<p>◇教材の背景にある史実を通して、当時の社会文化等の状況を理解することができた。</p> <p>◇講座が中止の際のWeb講座配信がありがたかった。</p> <p>◇自分の興味のある戦国時代の古文書を実際に見ることができたのは本当に感動した。(ティーンズ)</p>	
<p>○計画に従い各種出版物の発行</p> <p>・ブックレット:「学芸員が語る長野県立歴史館所蔵品選」第2巻を発行</p> <p>・館蔵資料の一品を学芸員が選定し、執筆する。ジャンル別に4巻構成、年1回発行</p> <p>・研究紀要:1冊発行</p> <p>・企画展図録:夏季・秋季・冬季企画展における図録の発行</p> <p>・館だより、催し物案内:館だより年4回、催し物案内年2回発行</p>	<p>・ブックレット信濃の郷土と歴史 26「学芸員が語る長野県立歴史館の所蔵品選」第2巻一考古資料一を発行</p> <p>・研究紀要:第28号発行</p> <p>・夏季・秋季・冬季企画展にそれぞれにおいて図録を発行</p> <p>・館だより年4回、催し物案内年1回発行</p> <p>・「長野県内出土土偶一覧」・「同関係文献一覧」・「同図版」のデータベースが完成し、HPにて公開</p>	B		
<p>○体験学習の教材開発と実施</p> <p>・新たな体験メニューの開発</p>	<p>・新しいクイズを作成、解答方法も手製しおりの配布等、参加者との対面での接触を減らす工夫をして実施</p>	A	<p>・クイズ形式のイベントでは、親子で楽しく参加している様子が見られた。</p>	

[取組2-3] 学校教育を支援します

令和3年度 目標値	令和3年度 達成値	自己評価	利用者評価(◇:アンケート)
<p>○学校見学時の施設案内の実施</p> <p>・希望校の90%以上の受入</p> <p>○大学等への授業・出前講座</p>	<p>・学校見学希望校受入率 100% 実施校数 193校 (R2 167校 前年比 116%)</p> <p>・バックヤード探検(施設見学)希望校受入率 100%</p>	A	<p>◇学童のための展示としてよく整備されていて、子供たちのためには良い施設と思う。</p> <p>◇子供たちの歴史への興味関心を高めることができた。</p> <p>・バックヤード探検(施設見学)については高評価をいただいている。</p>

令和3年度 目標値	令和3年度 達成値	自己評価	利用者評価(◇:アンケート)
○博物館実習の受入 ・コロナ対応のため参加人数上限8名まで受け入れる。 ○職場体験学習の受入	・博物館実習 10人 希望者受入率 100% コロナ対応のため、期間短縮、人数制限、内容変更等工夫を行い実施 ・中・高生職場体験 4校4人(100%受入)	A	◇展示実習で、完成した時の嬉しさや達成感を感じた。 ◇「博物館とは過去の人類の歩みを確認し、未来を考える場」という言葉を、実習を経験し改めて感じた。 ◇実習を通じて、学芸員という職業で働きたい気持ちが一層強くなった。
○教員研修への協力、実施 ・希望者の90%の受入	・新型コロナ対応により、相手先と調整しながら可能な範囲で受入 教材研究研修(県総合教育センター)9人参加 免許更新講習(信州大学) 3回予定(回定員20人) →1回目20人 2回目19人 3回目中止(免許制度変更)	B	◇地域素材を扱うことの意味をはっきり持っていないといけない。 ◇地元地域の資料館に子供たちとともに足を運びたい。 ◇社会科は史資料が命という言葉を変更して実感 ◇地域を活かしての教育活動は「学びへ向かう態度」を育むために大切

[取組2-4] 歴史情報を提供します

令和3年度 目標値	令和3年度 達成値	自己評価	利用者評価(◇:アンケート)
○史資料の閲覧 ・整理が終了した古文書等の公開を進め、公開情報をホームページ、ブログ等で掲載、周知 ・整理・収納した考古資料公開を進める。依頼については事前調整を行い、閲覧可能な資料には100%対応する。 ・図書資料については、寄贈、購入等の手続き終了次第閲覧可能となるよう登録を進める。 2月末までの受入図書資料を年度内に100%登録	・整理が終了した古文書等の公開 整理を終えた古文書群は直ちに公開手続を取り、ホームページ上でその都度データ更新を実施 公開件数 7,395点、公開度 100% ・古文書公開ブログ 19回更新、新資料の情報を積極的に公開 ・考古資料の閲覧 21件 100%対応 ・2月末までの受入図書資料登録 100%	A	◇閲覧室の対応が丁寧で、親切でした。 ◇閲覧用紙の書き方など、担当の方がわかりやすく対応してくれた。 ◇ブログを頻繁に公開してもらえたので、新しい史料を知ることができた。
○レファレンスにに対する的確な対応 ・レファレンス対応 100%実施 ・職員間のレファレンス内容の共有	・レファレンス対応 100%実施 ・職員間のレファレンス内容の共有	A	◇質問に対して、担当の方が細かく説明してくれてありがたかった。
○ホームページによる情報提供 ・アクセス数の増加 前年比100%以上 ・開閉館情報や来館者へのお知らせなど時宜に応じて発信 ・展示解説動画配信やこども向けなどWebを利用した企画を計画・実施	・アクセス数 94,085件 (R2 94,219件 前年度比99.8%) ・展示解説動画を新規配信開始	B	・当館の新型コロナ対応は、変更に伴い早急なHPによる発信、問い合わせにもHP利用を呼びかけ、大きな混乱はなかった。 ・新たに始めたツイッターによる発信も活用
○歴史情報のデータベース化の推進 ・考古資料 長野県史収録の遺跡情報の活用を推進する。展示会や講演会等で周知 ・文献史料 古文書等の目録をデータベース化し、歴史情報システムに登録する。翻刻した文書を掲載	・考古資料 長野県史収録の遺跡情報の活用を推進するため、展示会や講演会等で周知 ・文献史料 古文書等の目録をデータベース化し、歴史情報システムに7,852点登録	A	・ホームページで目録の情報を更新しているため、逐一状況が確認できてありがたいとの声があった。
○歴史館情報のマスコミからの情報発信 ・信濃毎日新聞「しなの歴史再見」への連載 ・企画展、講座等の情報発信(新聞、情報誌等への掲載) ・ケーブルテレビによる主催講座の発信	・新聞コラム「しなの歴史再見」(信濃毎日新聞) 51回掲載 ・新聞イベント欄、新聞有料広告、雑誌・情報誌、ラジオ、ケーブルテレビ有線放送等で企画展・講座等の情報発信実施 ・ケーブルテレビによる主催講座の撮影、放映実施	A	・新聞コラムは計画的に新展示や企画展に合わせた内容を扱っており、それをみての来館者多く、広範囲で有効 ・新型コロナで講座等の人数制限や移動の自粛がある中、CATVでの発信は有効
○マルチメディアの新たな方法検討 ・現代の情報機器にあった既構築コンテンツの活用方法を検討する。	・マルチメディアについてはマウスを用いる解答方式のため、新型コロナ対応で常設展示室から撤去 ・新たな方策として、QRコードによる情報提供を開始し、徐々に増設	B	

【基本目標3】楽しむ場・憩いの場・交流の場としての役割を果たします

【取組3-1】楽しむことができる場とします

令和3年度 目標値	令和3年度 達成値	自己評価	利用者評価(◇:アンケート)
○館リニューアル検討と併せ、こども歴史館(仮)の検討 ・展示構想検討	・こども歴史館(仮)については、県教委と話し合い、館全体のリニューアルの中で今後検討	B	
○親子映画会の開催 ・満足度 80%以上 ○体験イベントの開催 ・館内でイベントを実施	・親子映画会は詳細に計画したが、新型コロナウイルス感染防止のためすべて中止 ・体験イベント 5回実施 *5/5:「歴史館でこどもの日」150人 *8/1:「歴史館で夏休み」192人 常設展示室 クイズにチャレンジ 103人 「どきもドキ」89人 *11/3:開館記念日無料公開、体験イベントなし(将軍塚まつりは中止) *11/27:「KOAの日」関連イベント 「プラ板マスコットづくり」139人 *11/28:「縄文風クリスマスリースを作ろう」48人	B	・コロナ下でイベントが少ない中、親子で楽しんで取り組む様子がみられた。 ・体験内容を学校の活動で使いたいという声があった。

【取組3-2】人が交流でき、憩える場とします

令和3年度 目標値	令和3年度 達成値	自己評価	利用者評価(◇:アンケート)
○来館者同士、来館者とボランティア・館職員の交流の場の提供 ・体験イベント等における来館者、ボランティア、館職員の交流促進	・解説ボランティア 新型コロナ状況に合わせ、声のかけ方や解説方法を工夫して実施 ・体験ボランティア 新型コロナ対応をしながら、イベント時にプラ板づくりなど活動 ・作業ボランティア 従来の古文書等整理、木器保存処理に加え、図書整理にボランティア3名が参加	A	◇ボランティアの話を聞きながら観覧してすごく楽しく、小1の子も最後まで楽しく見ていた。 ◇ボランティアに説明で、いろいろ知らないことを教えてもらい、知識が深まった。
○屋外展示の充実 ・通路の整備、清掃 ・各時代別植栽の手入れ、看板の整備	・老木となった屋外展示の樹木の手入れを、職員により実施 ・表示の整備・更新を検討	B	

【取組3-3】県民が参加した館の運営を進めます

令和3年度 目標値	令和3年度 達成値	自己評価	利用者評価(◇:アンケート)
○古文書愛好会の育成と活動支援 ・参加者数 500人(延べ) ・古文書解説文1冊を刊行	・参加者数 延べ 351人 *館蔵文書を読む会 8回開催 参加者 36人(延べ 213人) *古文書解説文「大井法華堂日記」刊行、HP公開 *古文書探訪会(佐久方面) 参加者 25人 *古文書演習 夏季5回 参加者 23人(延べ 78人) 冬季3回 参加者 26人(延べ 35人)	A	◇20年前までは地区の古文書勉強会があった。こういうのは大変貴重。続けてほしい。 ◇地元の会ではなかなか史料を出してくれないが、この会では地域の史料を学べてよい。 ◇今年は一歩踏み込んで内容について深く検討ができた。みんな勉強していて刺激になる。
○運営サポートボランティアの育成 ・展示解説・体験・作業ボランティアの募集・養成を行い、館運営への活用を推進	・歴史館HP、チラシ(当館設置)により募集 新規登録者 16人 ・解説ボランティア 毎週日曜日と祝日、11月~2月 21日間実施 マスク着用、ソーシャルディスタンス確保等の感染防止対策を講じて実施 ・体験ボランティア 企業協賛「KOAの日」にプラ板づくり実施 ・作業ボランティア 286回 木器処理 76回、文献整理 179回、図書整理 28回	A	◇解説ボランティアの活動が少ない中で、作業など他のボランティアに参加し活動できたことは館とのつながりをもてよかったとの声があった。
○利用者アンケートの活用 ・来館者アンケートの意見の反映 ・ホームページ問合せフォームによる意見募集	・常設展、企画展、講演会等について、来館者の記述式のアンケートを実施 ・来館のきっかけとなった情報媒体を調査するため、冬季企画展開催時にシール式のアンケートを実施	B	

【基本目標4】 県内全域での活動を推進し、地域に貢献する活動を進めます

【取組4-1】 県内全域の県民の生涯学習、子どもたちの歴史学習を支援します

令和3年度 目標値	令和3年度 達成値	自己評価	利用者評価(◇:アンケート)
○出前講座等の開催 ・「信州学出前講座」として、飯山市・上田市・安曇野市と連携した講座を開催 ・満足度 80%以上 ・上記以外の出前講座 要請の90%以上実施	・館内での信州学講座 3回開講(3回中止) 聴講者数計 144人 満足度 88.7% ・信州学出前講座 2回開講 聴講者数計 27人 満足度 86.4% (飯山中止、上田 13人、安曇野 14人) 新型コロナ対応で各自治体とも人数を厳しく制限して実施。各講座ともほぼ上限人数が参加。 ・上記以外の出前講座 要請数 43件 実施数 43件 聴講者数 1,472人 要望 100%実施	A	・弥生文化における上小地域の特異性や、信州南北の違いなどとても興味深かった。 ・安曇野の視点を入れていただき、景観を振り返る機会になった。晚霞展にはぜひ行きたい。 ・歴史館職員の講座を楽しみにしている。専門性もあり地域にも触れていただけなので興味深く聞くことができる。
○お出かけ歴史館事業の実施 ・伊那・木曾地域に加え、諏訪地域も対象に追加 5回開催 ○出前授業の実施 ・学校からの出前授業 要請の90%以上実施	・1校1学級、公民館3館3講座 57人に実施 ・お出かけ歴史館事業広報のための学校訪問 上伊那・下伊那・木曾・諏訪地方の小中学校、公民館に広報活動実施	B	・地元の遺跡紹介などでは、熱心にメモを取る小学生や親子で写真を撮る姿が見られた。 ・歴史館の場所を教えてくださいとの問合せが複数あった。 ・歴史館は教員主体であり、学校現場の状況を理解した上での出前授業のため、児童にとって有意義、教員には有益

【取組4-2】 地域活性化につながる情報発信を進めます

令和3年度 目標値	令和3年度 達成値	自己評価	利用者評価(◇:アンケート)
○地域の活性化に寄与する積極的な情報発信 ・県内の地域に特化した企画展の調査・研究 ・常設展・企画展における市町村所蔵資料などの借用・展示	・R4 企画展として、県内地域に焦点を当てた「諏訪と武田氏」、「高遠藩の遺産」の開催を決定 ・R7 開催を目的に「安曇野展」を構想、調査・研究中 ・R2「弥生展」展示パネル等を利用し、県内14箇所地元市町村と共催の地域展を開催 総来場者 24,395人	A	・大井法華堂展は佐久市と共催し、連携講座のほか現地見学会を実施することができ、双方で連携できてありがたいとの声があった。

【取組4-3】 地域課題を捉えた調査研究を推進します

令和3年度 目標値	令和3年度 達成値	自己評価	利用者評価(◇:アンケート)
○歴史的被害を伝える史料の活用研究会への調査協力・連携 ・「歴史的被害を伝える史料の活用研究会」(※)との連携・調査協力 ・当館蔵の長野県測量図等のデジタル撮影、研究会の開催	・「歴史的被害を伝える史料の活用研究会」との連携・調査協力 ・当館蔵の長野県測量図等のデジタル撮影、研究会の開催 (※)山浦直人当館名誉学芸員が中心となって立ち上げた河川絵図を調査し活用する研究会	A	・池田町で当館所蔵資料のパネル展示に協力できた。 ・デジタル化した長野県測量図についてパソコン上における閲覧システムを構築でき、利用しやすくなった。

【基本目標5】 県内博物館・文書館の中核、歴史情報の拠点としての役割を充実させます

【取組5-1】 県内外諸機関との連携を進めます

令和3年度 目標値	令和3年度 達成値	自己評価	利用者評価(◇:アンケート)
○県外博物館との連携 ・須坂市(市まるごと博物館推進)との連携協定の締結 ○長野県博物館協議会の運営 ・県博物館協議会 HP の運用。加盟館のイベントを発信	・須坂市と自治体2例目となる連携協定を締結 ・その一環として「須坂市民の日」(11月21日)を設定し、須坂関係史料の特別公開、市民向けの施設案内などを実施 須坂市民 108人 来館 ・県博物館協議会 HP を運営し、情報発信を行った。	A	◇県立の歴史館に地元の史資料が収蔵され、展示されていることがうれしい。 ◇市民向けに普段見られない施設案内の機会をつくってもらい、ありがたい。
○関係機関との連携 ・考古学セミナー(県考古学会共催) 1回 ・近世史セミナー(信濃史学会、信州近世史セミナー共催) 1回 ・山梨県考古学協会と連携し企画展調等 ・歴史館パートナーの日 年2回開催	・考古学セミナー:新型コロナ対応のため中止 ・近世史セミナー:12月4日開催 受講者 30人 ・「KOAの日」:11月27日開催(無料公開) 入館者 139人 バックヤード案内・プラ板づくり 68人参加	A	・企業協賛に伴い実施した小学校と当館を結んでのオンライン授業は、コロナの影響で来館できない中、今後もやってもらいたいとの要望があった。
○歴史情報の積極的な収集・集約 ・資料調査員からの県内市町村資料情報の収集 ・県内外歴史雑誌等の収集及び掲載内容の閲覧システム登録	・資料調査員から情報収集 HP で公開 県内市町村史資料情報 47件、歴史情報 63件 ・県内外歴史関係雑誌 804冊収集、掲載内容を閲覧システムへ登録	A	・HP で情報を得た市町村文化財担当者が利用している例もあった。

【取組5-2】 県内歴史情報のデータベース化・デジタルアーカイブを推進します

令和3年度 目標値	令和3年度 達成値	自己評価	利用者評価(◇:アンケート)
<p>○集約した県内歴史情報のデータベース化、共有化</p> <p>・資料調査員からの市町村資料情報をデータベース化する</p>	<p>・資料調査員から収集した県内市町村史資料情報・歴史情報 110 件をデータベース化し、活用できるよう当館 HP に掲載、公開</p> <p>・県内出土土偶のデータベース化が終了、当館 HP で公開 掲載資料 4,320 点</p>	A	<p>・HP 掲載のアーカイブ資料(宮坂武男城郭図・明治期の村絵図等)を閲覧しての利用申請・問い合わせが多くなってきている。</p>
<p>○データベース化した歴史情報のデジタル・アーカイブ作成</p> <p>・館内史資料のデジタル化を進め、デジタル・アーカイブとしてまとめる。</p>	<p>・考古資料:発掘調査関係写真のデジタル化 35mm:1,300 枚、中版 6×7:2,065 枚</p> <p>・文献史料:収集古文書のマイクロフィルム化 2,850 件</p>	A	<p>・マイクロフィルム化及び HP 掲載用の PDF 化ができたため、HP で翻刻文とともに画像を見られてよとの声があった。</p>
<p>○ホームページなどによるデータベース・デジタルアーカイブの提供</p> <p>・HP 内デジタルアーカイブ利用数の増加 前年比 100%以上</p> <p>・アーカイブの HP 新規追加</p>	<p>・ホームページアクセス数 94,085 件 (R2:94,219 件 前年度比 99.8% HP リニューアル前:H30 年度 76,369 件)</p> <p>・デジタルアーカイブの新規追加 県内土偶データベース化終了・公開 4,320 件</p>	B	<p>・新型コロナウイルス感染状況に応じた当館の対応を知るため、HP をよく見るようにしているとの声があった。</p>

【基本目標6】 来館者及び職員の安全・安心を第一とした館運営を行います

令和3年度 目標値	令和3年度 達成値	自己評価	利用者評価(◇:アンケート)
<p>○適切な感染防止策の徹底</p> <p>・検温、マスク着用、入場制限、距離の確保、健康状態の把握、事前申込、定期的な消毒、換気など</p> <p>○安全管理のためのマネジメント</p> <p>・最新の情報収集、状況変化に応じた対応策の検討、事態発生時の対応策など</p>	<p>・年間通じ、入館時の検温・連絡先の記入、講座等における定員削減・事前申込制を継続的に実施</p> <p>・展示室における入場制限については、「まん延防止機関」など状況に合わせて設定を変更し、監視員との連携を図りながら、適正な距離の確保</p> <p>・県の感染レベルにあわせた運営基準を設定、それを原則とした対応実施(例 レベル5では閲覧室閉鎖・閲覧業務停止、緊急事態宣言下での休館など)</p>	A	<p>・学校見学において、少人数での見学や立ち位置マークは、ソーシャルディスタンスを保つ上でとても良いとの先生からの声があった。</p>